



中南米への食産業展開・輸出促進セミナー

JETROメキシコ事務所
Director de Promoción Comercial
(貿易促進ダイレクター)

深澤竜太

2025.3.14



1. メキシコ概要

人口：約1.29億人（世界10位、日本は1.25億人で12位）

日系人：約2万人（世界7位）

言語：スペイン語

（米州のスペイン語話者約5億人 1位メキシコ、2位米国/0.6億人）

宗教：ほぼキリスト教カトリック

アクセス：成田⇄メキシコシティの直行便が毎日運航
ANA、AEROMÉXICO



1. メキシコ概要

進出日系企業拠点数：1,498拠点で世界11位
(約5割が製造業、中国・米国・アジアを除くとドイツの次に多い)

名目GDP：1.4兆ドルで世界12位

1人当たりGDP：1.10万ドルで世界73位

平均年齢：約29歳

新政権（初の女性大統領、シェインバウム大統領）



2. メキシコにおける日本食材 – 日本産食材サポーター店

日本国外にある、日本産食材や酒類を使用／販売している、レストラン／小売り店を「日本産食材サポーター店」として認定する制度。



2025年2月末時点
全世界で**5,562店舗**登録

	合計		合計
1 オーストラリア	1,807	6 台湾	182
2 香港	1,244	7 メキシコ	171
3 フィリピン	381	8 米国	145
4 マレーシア	281	9 フランス	108
5 タイ	226	10 シンガポール	106

2. メキシコにおける日本食材 – 日本産食材サポーター店

日本国外にある、日本産食材や酒類を使用／販売している、レストラン／小売り店を「日本産食材サポーター店」として認定する制度。

メキシコの登録店舗インタビュー記事



TOYO FOODS PROVIDENCIA店

「世界と触れ合う体験」を提供する日本食材店



Restaurante Sato

日本食への深い理解と現地感覚の融合が生み出す本格派レストラン



Izakaya GOEN

メキシコの地方都市を代表する本格派日本食レストラン

2. メキシコにおける日本食材 – インポーター・ディストリビューター

日本産食材を継続的に輸入するメキシコ国内プレーヤーは**限定的**。既に輸入経験のある業者に対しては更なる日本企業の紹介機会を提供すると共に、未だ経験少ないが関心ある業者の発掘にも取り組む。



ジェイ・エフ・シー・デ・メヒコ

B to B

総合食品

水産品



トヨ・フーズ

B to B / B to C

総合食品

水産品

和牛



クメ・インポルタシオネス

B to B

総合食品

水産品



ノバ・フーズ

B to B

総合食品

水産品



グバル・フーズ

B to B

総合食品



ガパ・フードサービス

B to B

和牛

水産品



ノバタ・ファーム・メキシコ

B to C

和牛



ワギユウ・テソロ・デ・ハポン

B to B

和牛



ソノラ・グリル・グループ

B to C

和牛

水産品



ハンセアティック

B to B / B to C

調味料



コステニョ・グループ

B to C

和牛

+ a

2. メキシコにおける日本食材 – キーワード

日本産精米輸入の解禁（2023年3月～）

日本産和牛への関心高まり

ラーメン店舗増加中

ホタテが“Hotate”として浸透傾向

1年以上の賞味期限推奨

日墨EPAやCPTPP（TPP11）を活用

3. 2024年度のメキシコ事務所取り組み例 – 水産品

メキシコにおけるホタテ加工サプライチェーン構築に向けた取り組み、ホタテを始めとする水産品の代替販路開拓、水産業が主要産業である州政府（バハカリフォルニア州）などとの関係構築を実施。

■ ホタテ活用ワークショップ

2024年7～12月

メキシコ国内7州

非日系レストラン向けに、日本産冷凍両貝ホタテを紹介。取り扱い方、味、調理方法などをワークショップ形式でレクチャー。

■ メキシコ加工ホタテのプロモーション

2024年11月

米国・サンディエゴ

サンディエゴで開催されたSake Festivalに、メキシコで殻向き・玉冷加工した日本産ホタテを提供。来場者・シェフからのフィードバックを得た。



3. 2024年度のメキシコ事務所取り組み例 – 水産品

メキシコにおけるホタテ加工サプライチェーン構築に向けた取り組み、ホタテを始めとする水産品の代替販路開拓、水産業が主要産業である州政府（バハカリフォルニア州）などとの関係構築を実施。

■ 東北・北海道地域試食会

2024年11～12月

メキシコ・モンテレイ、オンライン

東北・北海道地域の企業20社の水産品試食会をモンテレイで開催、その後オンライン商談。

①米国LA経由、②メキシコ直送、の2ルートでサンプル品輸送（いずれも冷凍）。

品目は、ホタテ、カキ、アワビ、イクラ、タコ、タラ、練り物、アオサなど。



3. 2024年度のメキシコ事務所取り組み例 – 精米、酒類など

2023年3月の日本産精米のメキシコ輸入解禁を経て、全米輸と協力したプロモーションを実施。また、精米を含む加工品の試食会、和歌山の梅酒企業ミッションを実施。

■全米輸連携プロモーション

2024年8月

メキシコ・メキシコシティ、カンクン

全米輸会員企業8社が来墨。シティでの視察・商談、カンクンのリゾートホテルThe Palace Company主催イベントでの精米・日本酒プロモーションを実施。

Palace社の食品飲料部門長が全8社と商談。



3. 2024年度のメキシコ事務所取り組み例 – 精米、酒類など

2023年3月の日本産精米のメキシコ輸入解禁を経て、全米輸と協力したプロモーションを実施。また、精米を含む加工品の試食会、和歌山の梅酒企業ミッションを実施。

■ 東北地域試食会

2025年1～2月
メキシコ・モンテレイ

東北地域の精米・パックライス・乾麺・酒類（ワイン、リキュール、ビール、焼酎）の試食会をモンテレイ開催、その後オンライン商談。23社が本事業参加、2社来墨。



■ 和歌山梅酒企業ミッション

2025年2月
メキシコ・メキシコシティ

和歌山県内の梅酒企業3社が来墨し、市場視察および現地バイヤーとの商談を実施。





ご清聴ありがとうございました

JETROメキシコ事務所
Director de Promoción Comercial
(貿易促進ダイレクター)

深澤竜太

2025.3.14



トランプ関税の影響

「ジェトロ ビジネス短信 メキシコ」ページにて、米トランプ政権による関税やその影響、メキシコ政権の動きについて日々情報発信を行っています。

ビジネス短信

2088件中 1から30件目

2025年3月11日	ジェトロ、米シカゴとデトロイトで、メキシコのニアショアリングと新政権のセミナー開催(米国、メキシコ)
2025年3月11日	カナダ、第2弾の対米対抗措置の延期発表、第1弾は発動継続中(カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月7日	メキシコ大統領、USMCA原産品への追加関税除外合意で、電話会談の成果を強調(米国、メキシコ)
2025年3月7日	米・メキシコ間でUSMCA未利用率は全体の5割、トランプ関税ではMFNが0%の品目に注意(米国、メキシコ)
2025年3月7日	トランプ米政権、USMCA原産地規則を満たすメキシコ・カナダ産品を追加関税の適用対象から除外(カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月6日	米イリノイ州知事、カナダとメキシコへの追加関税反対をあらためて表明(カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月6日	カナダとメキシコへの米追加関税で車両価格は1万2,000ドル増との試算(カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月6日	メキシコ産業界5団体、トランプ追加関税は北米経済圏の低迷や生産活動崩壊を招くと懸念表明(カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月5日	メキシコ大統領、3月9日に対米報復関税を公表、対話も継続(米国、メキシコ)
2025年3月5日	トランプ米政権、メキシコとカナダに対する追加関税措置のファクトシート発表(カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月5日	米国による追加関税発動で、カナダが対抗措置発表(カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月5日	ジェトロの関税相談窓口、開設1カ月で約200件の相談対応(中国、カナダ、米国、メキシコ)
2025年3月4日	トランプ米政権、メキシコ・カナダに対する追加関税発動(中国、カナダ、米国、メキシコ)

メキシコへの輸出に最適な貿易協定を選択

